

IV-5

新聞にみる発掘された土木遺構に関する研究

日本大学工学部 学生員 ○安保 堅史
正会員 藤田 龍之
正会員 知野 泰明

1. はじめに

近年三内丸山遺跡を始め数多くの遺跡が発掘されているが、その中には土木に関係しているものも多く認められる。土木史を研究する場合、史料のみではその実状を知るには限界があり、それを補填するものとして考古史料が重要となる。しかしながらこれまで土木に関する発掘史料を積極的に研究、あるいはまとめる動きは少なかった。そこで本研究は、発掘史料に関する研究方法の検討とデータの蓄積を目的とし、新聞に掲載された土木に関係する発掘情報を収集し、各時代における土木技術の特徴を考察してみたものである。得られたデータが少ないため、研究方法の検討に重点を置いた。

2. 研究方法

本研究では平成元年～8年の朝日新聞にみられる発掘された土木遺構に関する記事を抜き出し、項目別に分類、さらに年代順に並べて年表を作成した（今回は古墳に関しては省略した）。続いて、これらの土木遺構がどの地域で発掘されたのかという分布傾向をつかむために、発掘地点を都道府県別に分けた。

分類で用いた項目は、①利水（堀、池、水洗トイレ、水道など）、②石造・木造構造物（巨石構造物、石垣、杭など）、③土工構造物（盛り土、環濠など）、④道路関係（古道、都市遺跡における区画道路など）、⑤庭園とした。

3. 検討および考察

I. 年表について（表Ⅰを参照）

①利水：先史時代においては、利水関係の出土は少ない。ほとんどが単体の遺構ではなく大規模遺構の一部として発見されたもので、ため池や井戸など簡単な構造のものであるが、中には「池島・福万寺遺跡」のように高度な技術をもって造られた堤防や導水施設の遺構も見つかっている。古墳時代も種類はさほど変わらないが、ユニークなもので、水洗トイレがある。中世では屋敷や城の周りを囲む堀などが多く見られる。江戸時代においては、JR四ッ谷駅付近で大規模な上下水道の遺構の一部が見つかっている。

②石造・木造構造物：石を使った構造物は先史時代に単純な「配石遺構」から、古墳時代での複雑で技術を必要とする「石組み」に、さらに中世における築城する際の基礎工となる「石垣」や「石堀」などへと発達していく様子が推測された。また木を使ったものは、戦時における防御手段としての木柵が多くみられた。

③土工構造物：項目の中では数が最も多くなった。弥生時代に特に多い「環濠」は、単純で効果的な防衛策として、古代から多用されてきたようである。中国の史書『魏志倭人伝』に、この時期は「倭国大いに乱れる」との記述があり、これに関係するものと見られる。ほかには、先史時代における盛り土遺構などがあるが、実用的なものではなく、祭祀などに使われたもののようだとされている。

④道路関係：道路遺構は古墳時代から安土桃山時代までのものがあり、「街道」と都市遺跡の「区画としての道路」の二つに分けられる。どちらの区分に分けられた遺構も排水のための側溝や、補強のための石などが使われたしっかりした造りのものばかりとなった。

⑤庭園：古墳時代から平安時代までの遺構となった。どの庭園遺構も石組み・井戸・池など様々な土木技術を使って造られたものばかりであった。

II. 遺跡の位置について（表Ⅰを参照）

①利水：大まかに東北・関東・関西の3地方に分けられる。東北は地域・時代共に特にまともは見られない。関東は一部を除き奈良・平安時代以降の遺構で、群馬県に見られたのは農業土木関連、東京都で見つかったのは

キーワード：土木史研究方法論、土木史史料、土木史新聞史料、発掘史料

〒 963-8706 福島県郡山市田村町徳定字中河原1番地 TEL 0249-56-8706 FAX 0249-56-8858

江戸時代の遺構が中心となっている。関西で多いのは奈良県で、内容も様々であるが、中世以降の遺構の出土が少なく、江戸時代のものは今回はみられなかった。

②石造・木造構造物：北海道から沖縄まで広い分布を示す結果となった。大まかな傾向は、北海道・東北はほとんどが先史時代の遺構で、関西では奈良県で古墳時代に石を使った遺構が多数出土している。これは歴史的に栄えたことに加え、現在、奈良県で発掘が盛んであることによるとと思われる。最後に沖縄のドルメン遺構だが、これは工法等から中国との関連を示すと考えられているが詳しい事は分かっていない。

③土工構造物：分布は全国に広く渡っている。①や②の項目には出てこなかった九州での出土が目を引く。これらのほとんどが「環濠」である。

④道路関係：関東地方が最も多く全体の半数を占めた。

⑤庭園：関西地方だけに偏るかたちとなった。

表-1 土木遺跡年表

時代区分	利水			石造・木造構造物			土工構造物			道路関係			庭園	
	遺跡名	都道府県名	遺跡名	遺跡名	都道府県名	遺跡名	遺跡名	都道府県名	遺跡名	遺跡名	都道府県名	遺跡名	遺跡名	都道府県名
縄文時代	瀬田池	三内丸山	青森	配石遺構	宮城野	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
弥生時代	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
	瀬田池	三内丸山	青森	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
古墳時代	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
中世	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
近世	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					
	井戸	寺野	栃木	配石遺構	三内丸山	北海道	環状土・石造り	宮城野	北海道					

III. 考察

全体的な傾向としては、発掘された遺構分布には道路・庭園遺構のように偏りが見られるものと土工構造物のように広く全国に見られるものがある事が分かった。また年表と地域要素を関連付けて検討することにより、構造物の遺構は先史時代では、北海道・東北に「函館空港遺跡群」「脇神伊勢堂岱遺跡」のように、石を並べただけの配石遺構などの比較的単純な遺構、古墳時代では関西に「両槻宮跡」「葛城邸跡」に見られる 2~4 メートルの高さに整然と石を積み上げるという技術的に高度な遺構というように、時代の違いによる技術の発達らしきものが見いだせた。また、年表ではある項目の技術が単純に発達していったように見られたが、地域的要素に着目すると、時代別に遺構の地域が離れているため、必ずしもそれぞれに関係があるとは言えないことがわかった。

本研究方法では、これから見つかる可能性のある遺構の地域・傾向を予想することができる反面、史料が足りない場合不完全な図・表になり、間違った関連付けと時代的流れを結論づけてしまうという欠点も持っている。これを補うためには、より一層の史料収集や、分類項目の再検討などが必要であると考えられる。

4. おわりに

本研究の目的の一つは、研究方法の検討であった。新聞などの資料を分析する場合、いくつかの方法があるが、本研究は何かの項目に絞るのではなく、土木遺構に関連する項目をすべて拾い出し、分類、傾向をつかむ方法をとった。この方法により、ある技術がどの地方でどのくらい見られるかということを大まかに推測することができる。またその技術と他の技術との関連を同時に調べることができる。また新聞という速報性の高い資料を用いることで、発掘から短期間でデータの分析・蓄積を行えるという利点もある。

今後は、記事収集年をより広げて、地元紙なども補うことによって、より細かく土木遺構の変遷を明らかにし、それらのデータが土木遺構の保存、活用に役立つよう研究を進めたい。